

# [解答例]

英語〔A方式(11/20)〕

英語〔B方式(11/20)〕

設問		解答例	
①	I	①	4
		②	3
		③	3
		④	4
		⑤	2
		⑥	2
		⑦	4
		⑧	2
		⑨	4
		⑩	4
	II	⑪	2
		⑫	1
		⑬	4
		⑭	3
		⑮	4
	III	⑯	8
		⑰	1
		⑱	4
		⑲	3
		⑳	4
		㉑	7
		㉒	7
		㉓	2
		㉔	5
		㉕	7
②	I	①	1
		②	2
		③	2
		④	3
		⑤	2
		⑥	2
		⑦	3
		⑧	4
		⑨	4
		⑩	2
	II	⑪	4
		⑫	1
		⑬	1
		⑭	4
		⑮	1
	III	⑯	4
		⑰	2
		⑱	8
		⑲	3
		⑳	5
		㉑	1
		㉒	7
		㉓	6
		㉔	6
		㉕	3

設問		解答例	
①	I	①	2
		②	1
		③	2
		④	4
		⑤	4
		⑥	1
		⑦	4
		⑧	2
		⑨	3
		⑩	4
	II	⑪	1
		⑫	3
		⑬	1
		⑭	2
		⑮	3
	III	⑯	7
		⑰	5
		⑱	8
		⑲	2
		⑳	2
		㉑	1
		㉒	8
		㉓	1
		㉔	4
		㉕	3
②	I	①	2
		②	3
		③	1
		④	1
		⑤	3
		⑥	1
		⑦	2
		⑧	2
		⑨	1
		⑩	2
	II	⑪	3
		⑫	4
		⑬	1
		⑭	1
		⑮	4
	III	⑯	3
		⑰	6
		⑱	7
		⑲	2
		⑳	8
		㉑	5
		㉒	6
		㉓	2
		㉔	8
		㉕	6

# [解説]

## 英語〔A方式〕

### 英語①

#### I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「葛飾北斎の与えた影響」。

(1)・(3)・(6)・(7)は文脈を把握して空所を補う問題。(1)空所の前後では、some 200 years ago と in the present day という過去と現在が対比されていることがわかる。yet は接続詞で「けれども」の意。(3)空所の前の文では、浮世絵が日本では高く評価されていたこと、空所のあとでは西洋の人々が浮世絵の技巧に圧倒されたことが述べられ、逆接的な内容になっている。however で「しかしながら」の意。(6)空所を含む第7段落から、浮世絵が西洋の人々を魅了し、日本文化が注目されていたことが読み取れる。movement で「(政治的・社会的) 動向」の意。空所のあとにある Japonism の接尾辞 -ism が「主義」を表すこともヒントになる。(7)空所のある第8段落では、北斎の観察力・表現力がいかに優れていたかが述べられている。stunning で「驚くべき」の意。

(2)・(5)は本文中の語の意味を問う問題。類義語の知識が問われている。

(4)は本文中の語句の説明としてふさわしくない選択肢を選ぶ問題。下線部を含む段落と照らし合わせる。

(8)・(9)・(10)は本文中の語句に関する記述として適当な、または適当でない選択肢を選ぶ問題。(8)は第4～7段落、(9)は第8～11段落、(10)は最終段落の内容と照らし合わせる。

#### II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (1) resemble は他動詞で、「～に似ている」の意。状態を表す動詞のため進行形にはしない。
- (2) be about to do で「～しようとするところである」の意。
- (3) tomorrow という未来を表す語があるため、未来形で表す。
- (4) used to do で「(以前は)よく～したものだ」の意。ここでは to のあとに dance が省略されている。
- (5) ought to do で「～すべきだ」の意。否定形は ought not to do の形になる。

#### III

正しい語順は次の通り。

- (1) Sleep (gives rest to the body and peace of) mind.
- (2) I (tried to hurry but was held up by) the traffic.
- (3) Do you (think that money has anything to do with) happiness?
- (4) I (never see this album without being reminded of) my happy days at elementary school.
- (5) Please (help yourself to drinks when you have chosen) your pizza.

## 英語〔B方式〕

### 英語①

#### I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「読み書き能力について」。

(1)・(4)・(7)は本文中の語・表現の意味を問う問題。類義語・類似表現の知識が問われている。

(2)・(3)・(5)・(6)は文脈を把握して空所を補う問題。(2)空所からカンマまでには、19世紀にタイプライターが発明されたことが述べられている。一方でカンマ以降では、それが使用される分野は限られていたとある。逆説を表す Although 「～にもかかわらず」が適する。(3)空所を含む文の前文では、特定の分野に従事していないほとんどの人にとっては、手書きの文書が普通であったと述べられている。よって公的な書式も手書きで記入されていたと考

### 英語②

#### I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「日本人と西洋人とのコミュニケーションギャップ」。

(1)は文脈を把握して空所を補う問題。空所の前の文では、日本人と西洋人との会議において、両者の不安感は感じ取りづらく乗り越えがたいものだと述べられている。一方で空所のあとには、それは見えやすく解決しやすいとあり、前文とは反対の内容が述べられている。at other times で「またある時には」の意。

(2)・(3)・(4)・(5)は本文中の語句の意味を問う問題。(2)・(4)・(5)は類義語・類似表現、(3)は多義語の知識が問われている。

(6)は内容一致問題が2問、(8)は内容一致問題が1問と問題文のタイトルをつける問題。(6)および(8)の1. はリード文に続く内容が問われているため、リード文と選択肢を合わせて読み込む必要がある。タイトルは、その文章全体のテーマを示すものを選ぶ必要がある。

(7)は本文の内容と一致しない選択肢を選ぶ問題。選択肢のキーワードが該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。

#### II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (1) All you have to do is ～. で「あなたは～しさえすればよい。」の意。is のあとには to 不定詞、または to が省略されて動詞の原形が続く。
- (2) There is 構文では be 動詞以外に出現や存在を表す自動詞が使われる。
- (3) 〈知覚動詞 hear + O + 過去分詞〉で「O が～されるのを聞く」の意。it は形式目的語で that 節を指す。
- (4) be married で「結婚している」の意。後半の had to が過去時制なので were to be married「結婚する予定だった」とする。なお、選択肢②: got married with は文法的に間違い。「～(人)と結婚した」は、got married to (人)となるべき。
- (5) read between the lines で「行間を読む(=真意を理解する)」の意。

#### III

正しい語順は次の通り。

- (1) Could (you give me something to carry these apples) in?
- (2) It is not until we fall (ill that we learn the importance of health).
- (3) Little (does Tom know what trouble Bob is in).
- (4) Nothing (you say will persuade me to change my) mind.
- (5) I'll (put you through to the person in charge).

えられる。(5)空所を含む文では、仕事上のやり取りはたいていEメールやワープロで書かれた文書で行われていると述べられている。よって、手書きの商用の手紙は今では「珍しい」と言える。(6)空所のあとの〈名詞 + to do〉の形と、「スマートフォンが、実際に書き記さなくともテキストでコミュニケーションをとることを使用者に( )」という文脈から判断する。〈allow + O + to do〉で「O が～することを可能にする」の意。

(8)は本文の内容一致問題が2問。(9)は本文の内容と一致しない選択肢を選ぶ問題。いずれの問題でも、選択肢のキーワードが該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。

#### II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (1) 文脈から、空所のあとは「泳ぎに行かなかった」と否定の意味にする必要がある。hardly で「ほとんど～ない」の意。
- (2) 必要を表す形容詞に続く that 節の中は (S + (should +) 動詞の原形) の形になる。
- (3) I wish に続くので仮定法の形にする。he'd = he would
- (4) know better than to do で「～するほどばかりではない」の意。
- (5) in ～で「(今から)～後に」の意。

### III

正しい語順は次の通り。

- (1) This resort (is not what it was twenty years ago).
- (2) All men are (supposed to wear a tie at this restaurant).
- (3) George is (no more familiar with the Constitution than I) am.
- (4) The success of the exhibition (depends on whether the public are interested or) not.
- (5) As my Japanese language ability improved, (so did my understanding of Japanese people and) culture.

## 英語②

### I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「食のタブー」。

(1)・(3)・(5)は文脈を把握して空所を補う問題。(1)ユダヤ教・イスラム教では豚を、ヒンドゥー教では牛を食べることが禁じられているが、それは豚は不浄な動物、牛は神聖な動物とみなされているからという正反対の理由のためである。in contrast to ～で「～と対照的に」の意。(3)イギリスと the English-speaking former ( ) 「英語を話すかつての( )」が並列されていることに注目する。colony で「植民地」の意。(5)空所を含む文の前文では、自分の文化圏の食べ物はほかの文化圏の人々には問題になりうると述べられている。したがって、食べたがっていない人にもものを食べるように要求することは「無神経」だと考えられる。

(2)は本文中の語句の例を問う問題。dairy は「乳製品の」の意。

(4)は本文中の語の意味を問う問題。下線部前後の文脈を理解しているかが問われている。

(6)は本文の内容一致問題が3問。1. はリード文に続く内容が問われているため、リード文と選択肢を合わせて読み込む必要がある。

(7)は本文の内容一致問題が1問と問題文のタイトルをつける問題が1問。1. は選択肢のキーワードが該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。タイトルは、その文章全体のテーマを示すものを選ぶ必要がある。

### II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (1) make the most of ～で「～を最大限に活用する」の意。
- (2) あとに(代)名詞 + to do を続けられるのは told のみ。
- (3) be composed of ～で「～から成り立つ」の意。
- (4) command は建物などを主語にして「(景色など)を見下ろす」の意。
- (5) trouble with ～で「～の欠点」の意。そのほかの選択肢は文脈や前置詞が不適切。

### III

正しい語順は次の通り。

- (1) The welfare system in this (country is far from what it should be).
- (2) My father loves (my mother none the less for her faults).
- (3) The (thought flashed through her mind that this plan) was going to fail.
- (4) The driver couldn't get the (bus started no matter how hard he tried).
- (5) For thousands of years, salt (has been used to help prevent food from) perishing.